



精神障害を抱えながら大阪市のシステム会社で働く中田智之さん＝7月

## 精神障害者の就職急増 でも半数は1年内離職

# 求められる「雇う力」

うつ病や統合失調症など、精神障害を抱えて働く人が10年前と比べて8倍以上に急増している。一方、体調が優れず仕事に行けなくなり、1年以内に辞めてしまう人は半数余り。精神障害者を定着させるために、企業には態勢を整えて受け入れる「雇う力」が求められるようになってきた。法改正で2018年度から雇用が義務付けられ、さらなる増加も見込まれる中、支援機関や企業は模索を続ける。

## 定着へ態勢整備急務

「病気の自覚がなかった。だんだんとしんどくなって起きられなくなった。7月、兵庫県姫路市の講演会。中田智之さん(40)＝大阪府豊中市＝が統合失調症に苦しみ始めた20代からの日々を振り返った。東京で海外の不動産情報を提供する会社を友人と起こし、職場に覆袋を持ち込んでひたすら働いた。周囲に悪口を言われていたと感じ、「何でそんなこと言うんだ」と話

「病気の自覚がなかった。だんだんとしんどくなって起きられなくなった。7月、兵庫県姫路市の講演会。中田智之さん(40)＝大阪府豊中市＝が統合失調症に苦しみ始めた20代からの日々を振り返った。東京で海外の不動産情報を提供する会社を友人と起こし、職場に覆袋を持ち込んでひたすら働いた。周囲に悪口を言われていたと感じ、「何でそんなこと言うんだ」と話

め寄るように。家族に連れられ訪ねたクリニックで、病名を告げられた。

家でぼーっと過ごした。無職でいるよりも恥ずかしく感じ、アルバイトを始めたが半年もすると朝起きられなくなった。「自分一人でもう一度働こうと思っても無理なんやな」。数年後、NPO法人「大阪精神障害者就労支援ネットワーク」(JSN)に出会った。

JSNが大阪府内に構える4事業所には仕事に就けない約100人が毎日通い、ビジネススマナーの講習やチームごとの手作業など訓練に励む。最初は週に数日から始めて徐々に体を慣らし、数カ月後、業実習を経て就職につなげる

告ができたか」などの仕事面のチェック項目を自由に選び、毎日記録してグラフ化する。中田さん自身、ソフトを使うって週の初めがしんどいなることに気付けた。

大阪府は本年度、障害者の雇用支援事業にSPISを採用。50社に提供する。担当者には「雇用管理に生かす、受け入れる態勢を整えてほしい。支援者の数を増やして対応しても限界がある」と話す。

同様の取り組みを独自に進める企業もある。衣服や雑貨などを取り扱う店舗を全国展開、約4千人の社員のうち精神障害者が140人以上いる「良品計画」(東京)だ。本人の希望に配慮しながら

サイクルだ。JSNの支援で仕事を得た人の8割は1年後も続けており、ハローワークを通じて職に就いた場合の約2倍。金塚たかし統括所長(50)は「この定着率をもっと高めたい」と力を込める。

中田さんはJSNに1年2カ月通い、12年に大阪市のシステム会社「奥進システム」に入った。実体験をもとに、周囲の人にも日常生活の問題点や調子の波を知ってもらい、企業側の配慮も得られやすくなるための管理ソフト「SPIS」を開発した。

「健康状態が気になる」といった生活面や「作業時の報

### 〇 スーム

精神障害者の雇用義務化企業が一定割合以上の障害者を雇うよう義務付けられている法定雇用率について、2018年4月から精神障害者も対象に加えるよう定めた改正障害者雇用促進法が昨年6月に成立した。法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられ、今後ともが見通しであることから、企業が雇用率を達成するために精神障害者の雇用が進むとみられている。